

令和2年度
第3回

共 同 F D 研 修

オンライン学習の大学の現場

日 時	令和2年12月22日（火）13:00～15:00
開 催	オンライン（Zoomミーティング）
参加対象	私大等PF連携校、石川県内の大学関係者
定 員	300名
参加費	無料
申込み	以下のURLからお申し込みください [申込締切：12月21日] https://forms.gle/Arc6kszmDiBNNB2b9

目的

他大学のオンライン学習等の事例や情報を参考に、今後のコロナ対策やオンライン学習・指導による教育の質の向上を図る

プログラム

- ごあいさつ [私大等PF幹事校：金沢工業大学 学長 大澤 敏]
- 私大等PF校のオンライン授業の実施状況
[私大等PF幹事校：金沢工業大学 事務局長 谷 正史]
- 各大学のオンライン授業・オンライン学習の事例紹介
 - 北陸大学 [経済経営学部 学部長・教授 山本 啓一]
「北陸大学におけるオンライン教育の取り組み」
 - 金沢医科大学 [一般教育機構 医療人文学 准教授 本田 康二郎]
「コロナ禍中の学生指導：金沢医科大学第一学年の取り組み」
 - 金沢星稜大学・金沢星稜大学女子短期大学部 [事務局 国際交流課 課長 井下 桂子]
「コロナ禍のオンライン国際交流 -海外に行けない今だからこそできること-」
 - 金沢工業大学 [副学長（教育支援担当） 環境土木工学科 教授 鹿田 正昭]
「コロナ禍における反転授業の事例紹介 -シニアTA・シニアSA・臨時チュータによるアクティブラーニングの実践-」

参加方法

- 上記の申込み用URLからお申し込みください。
- 12月21日に、ご指定のメールアドレスへ、ZoomミーティングのURLならびに資料をお送りいたします。
- 当日、Zoomミーティングにてご参加ください。（12:50頃から入室可能です）
 - お名前には「大学等名」「氏名」をご入力ください。
 - マイクとカメラはオフにしてご参加ください。
 - 各大学の事例紹介後、その都度5分間の質疑応答時間を設けます。ご質問等は「チャット」機能を使用してください。全ての質問にお答えできない場合もあります。ご了承ください。
- 終了後にアンケートのURLをお送りします。ご協力をお願いいたします。

金沢市近郊 私立大学等の特色化推進プラットフォーム

【問合せ】金沢工業大学 大学事務局 共創教育推進室 電話：076-294-6743 Mail：kyousou-jimu@mlist.kanazawa-it.ac.jp

北陸大学

経済経営学部

学部長

教授 山本 啓一



北陸大学におけるオンライン教育の取り組み

北陸大学では、コロナ禍の中でオンライン授業に切り替えた。経済経営学部では、教員協働によるオンライン授業教材作成が行われるなど、様々な工夫が組織的に行われたこともあり、学生の高い満足度が得られた。

オンラインオープンキャンパスにもいち早く取り組み、zoom上で学生主導のプログラムを実施することができた。

また、本学部のオンライン授業に理解を示していただいた保護者に対して謝意を込めて「保護者&社会人対象オンライン講座」も実施した。

本報告では、こうした取組の概要とともに、アフターコロナの授業のあり方についても触れることとしたい。

金沢医科大学

一般教育機構

医療人文学

准教授 本田 康二郎



コロナ禍中の学生指導： 金沢医科大学第一学年の取り組み

2020年度春学期を遠隔講義によってスタートすることが決定し、9月末に対面講義が再開されるまでの約6カ月間、新入生は下宿にこもって講義を受講することになった。

各教員は慣れない遠隔講義の準備で右往左往したわけだが、それ以上に難しかったのは学生と教員との連絡回線を構築することだった。日々状況が変化する中で、学生の健康状態や学習状況を把握し、適切にアドバイスを行う必要があった。

本発表では、金沢医科大学の第一学年がどのようなシステムを作って学生の健康管理と修学見守りを行ってきたのかについて説明する。

金沢星稜大学・ 金沢星稜大学女子短期 大学部

事務局 国際交流課

課長 井下 桂子



コロナ禍のオンライン国際交流 - 海外に行けない今だからこそできること -

本学が積極的に進めている学生たちの海外での学びが、2019年度後半から2020年度にかけて大きな計画変更を余儀なくされた。

往來が可能となるにはまだ少し時間を要することが予想され、すべての海外プログラムを中止や延期としていくしかないことが残念である。

学生派遣及び受け入れの両方ができないこれまでにない状況下でもなんとか世界と学生をつなげる手段はないかと考え、これまでのコミュニケーションにより関係を築いてきた世界の協定校スタッフや世界各国で活躍中の知人らに呼びかけ、学生同士の交流のカタチや日本国内にしながら世界を学ぶ方法を模索した。

それらの事例を紹介する。

金沢工業大学

副学長（教育支援担当）

環境土木工学科

教授 鹿田 正昭



コロナ禍における反転授業の事例紹介 - シニアTA・シニアSA・臨時チューターによる アクティブラーニングの実践 -

金沢工業大学では「教学半」（きょうがくなかば：中国の古典「書経」に記されている故事の教え：人を教えるときには、調べ直したり知識を整理し直したりすることから、半分は自分が学ぶことになる）の教えを基に、一般のTA・SAとは異なる「シニアTA・シニアSA」制度を設けている。また、教学半を実践する場所として「ナレッジスクエア」をライブラリーセンターに確保し、教える側からの学力向上に努めている。講演では本学が開発した電子シラバス（e-シラバス）を活用し、筆者が実践する反転授業において「教学半」が遠隔授業でも遜色なく実施できたことについて紹介する。さらに、コロナ禍において測量士補国家資格認定に必要な実習科目（測量実習・演習）が国土地理院から承認された内容についても紹介する。

金沢市近郊 私立大学等の特色化推進プラットフォーム

【問合せ】金沢工業大学 大学事務局 共創教育推進室 電話：076-294-6743 Mail：kyousou-jimu@mlist.kanazawa-it.ac.jp